

経営比較分析表（令和6年度決算）

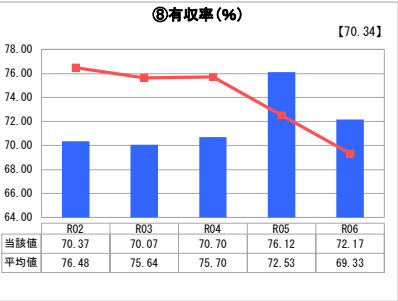
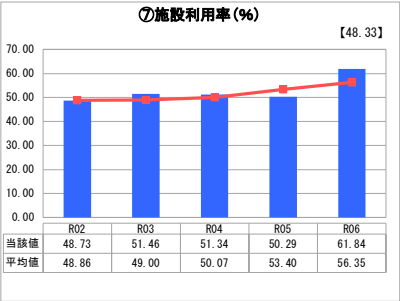
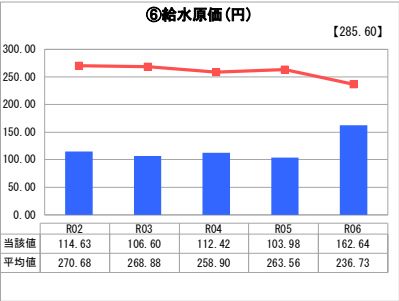
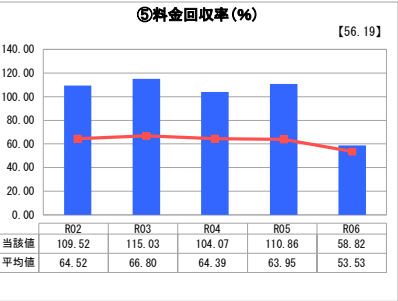
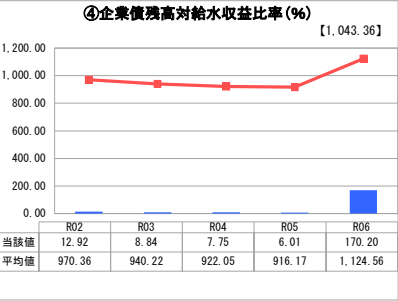
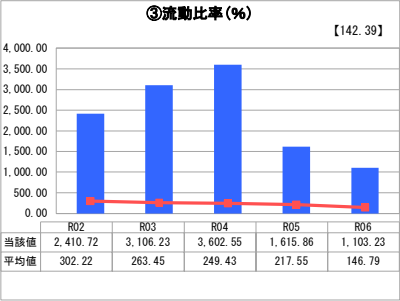
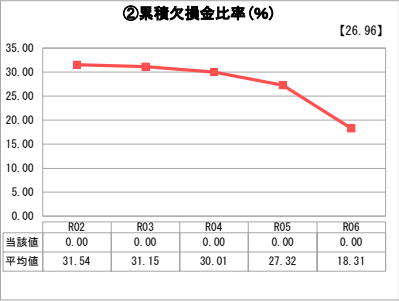
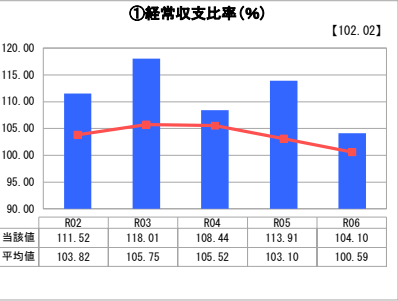
群馬県 長野原町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	94.95	105.79	1,480	

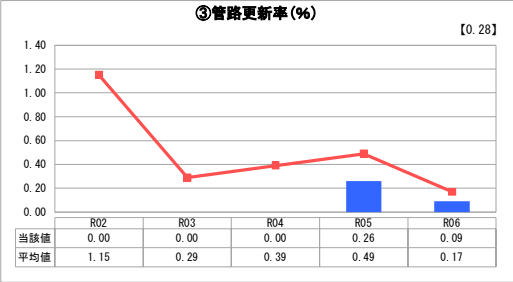
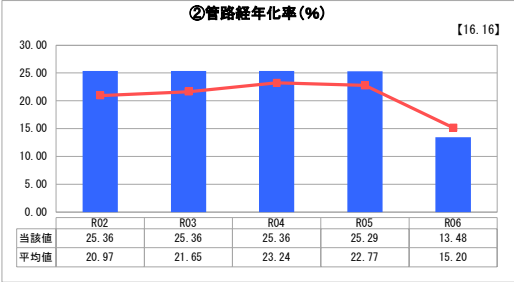
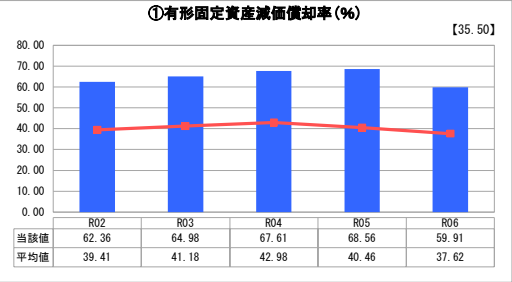
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,082	133.85	37.97
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,301	38.98	135.99

グラフ凡例
■ 当該団体の値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は当該値100%を超えており、安定して推移しています。今後も費用削減や適切な設備更新投資に留意していきます。②累積欠損金比率は0%ですが、今後も欠損金発生の防止に努めることと、設備に対する維持管理費増加への対応等、将来を見据えた取組が必要と考えます。③流動比率については、類似団体平均値を上回っており今後も維持していくことに努めます。④企業債残高対給水収益比率については、類似団体平均値より低い数値で推移していますが、今後も施設更新など適切な企業債運用が必要になると予想されます。⑤料金回収率については、設備修繕、漏水修繕等により前年より悪化しました。料金滞納者への対応の見直しや、費用削減等により改善に努めます。⑥給水減価については、類似団体平均値より低く抑えられており、効率的に運用されています。⑦施設利用率については、配水量に対して配水能力に余力がある状態ですが、過去に独自水源を確保して運用していた別荘地等の水道事業者が、水質や運営上の理由で法適簡易水道へ加入する事例があり、施設利用率は増加傾向にあります。⑧有収率については、若干悪化傾向にあります。漏水調査、漏水管修繕等で有収率増加に努めていきます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、前年対比で設備更新等のより数値は下がっていますが、今は法定耐用年数に近い施設が多くなってくることから施設更新の準備を進めておく必要があると考えます。②管路経年化率については、計画的に管路更新を進めている事により前年より数値が下がりました。今後は他の施設・設備等とのバランスを考慮しながら設備更新を進めます。③管路更新率については、類似団体平均値と比較しても低い状態で、今後管路更新が増えてくると予想されることから、計画的な管路更新計画を検討しなければならないと考えます。

全体総括

この事業の現状として、経常収支比率や流動比率に示される通り、健全な経営状態であると判断しています。また、給水減価は類似団体平均値の約7割程度に抑えられており効率性も高いと考えられています。課題としては各施設の老朽化による施設更新・漏水事故の発生、適切な料金水準の検討等がありますが、これらの課題解決のために健全な経営を目指すことに努めていきます。